



鈴木春重(司馬江漢) 左:「楼上縁先美人」 右:「風流七小町 しみづ」より構成

🔔「開学 30 周年を祝う」

かわさき市民アカデミーは、1993年に開学してから本年が30周年となります。12月9日には記念式典、川崎市長と語る特別鼎談「学び続けることの意味」、そして「新しい時代の市民大学」と題する記念シンポジウムを挙行了しました。10日の記念フェスタでは、いろいろな体験教室や講演+ディスカッション、古本市などを開催、また両日に亘ってアカデミーの歴史を辿る数々の展示を行いました。今後とも「つなぐ ひろがる 学びの力」のスローガンのもと、さらに前に進みましょう。

》》》》》 詳細は1月号で報告します。ご期待ください! 《《《《《



記念式典：馬場学長の言葉



特別鼎談：福田市長、
太田理事長、藤嶋顧問理事



シンポジウム：
基調講演：坂口緑先生



パネリディスカッション：田中雅文
先生ほかの皆さま



開学 30 周年を祝う
ハルーン



展示・研究発表：
「環境とみどり」



講演+ディスカッション：
「政治・社会」講座・WS



体験教室：
省エネグループほか

受講料・入会金の改定のお知らせ

受講生の皆さまにおかれましては、日ごろより、かわさき市民アカデミーへの温かいご支援をいただき御礼申し上げます。

かわさき市民アカデミーの受講料・入会金は、コロナ禍による大幅赤字に対応するため2021年度に30%の改定をさせていただきました。皆様からの多大なご支援(ご寄附・助成金等)により何とか3年間を過ごして参りましたが、延べ受講生数がコロナ前の80%から伸びない中で収入増がはかれませんでした。加えて、諸物価の高騰、講座会場の拡大対応、オンライン併用講座対応、新規募集システムの開発等々のコスト増により、大幅な赤字となっています。

この結果、2023年度繰越金が1千万円を切る見込みとなり、このまま2024年度を迎えますと繰越金がなくなり、事業存続が難しい事態となってしまいます。

これらの状況を受け、下記の通り受講料・入会金の改定をさせていただくことにしました。

受講生の皆さまには、大きなご負担をお願いすることになり、心苦しく思いますが、かわさき市民アカデミーのおかれた実情にご理解をいただき、引き続きご支援ご協力を賜りますよう心よりお願い申し上げます。

記

1. 実施時期

2024年度前期の講座・ワークショップなどの募集から改定します。

なお、2023年度入会の2年会員については、入会金の追加請求はありません。

2. 入会金・受講料の改定

講座受講料・入会金を17%増、ワークショップ受講料を8%増の改定を行います。

詳細は別表を参照して下さい。

3. 2024年度以降の計画・施策について

(1) 受講生数の大幅な増加は前提とせず、収支の黒字安定化を目標とし、繰越金の適正なレベルへの回復を図っていきます。

(2) 収支の安定化を図る

ためにも、講座やワークショップのあり方や運営の仕組みなどの見直しを行っていきます。

以上

※ 一部の講座・ワークショップの受講料は、上記に野外安全費用や演奏会費用などの諸費用を加えた設定としています。

※ 連携講座の受講料は、上記受講料に準拠して設定しています。

※ 地域協働講座の受講料は、別体系となります。

(別表) 入会金・受講料新旧対比表 《消費税10%込》

入会金

種別	対象	現 行 (円)		改定後 (円)	
		消費税抜	消費税込	消費税抜	消費税込
入会金	2年会員	15,600	17,160	18,252	20,080
	1年会員	9,100	10,010	10,647	11,710

学群に係る講座

受講料	回数	対象	現 行 (円)		改定後 (円)	
			消費税抜	消費税込	消費税抜	消費税込
受講料	12回講座	2年会員	10,400	11,440	12,168	13,380
		1年会員	11,700	12,870	13,689	15,060
		聴講生	15,600	17,160	18,252	20,080
	6回講座	2年会員	5,200	5,720	6,084	6,690
		1年会員	5,850	6,435	6,845	7,530
		聴講生	7,800	8,580	9,126	10,040

学群に係るワークショップ (WS)

受講料	回数	対象	現 行 (円)		改定後 (円)	
			消費税抜	消費税込	消費税抜	消費税込
受講料	12回WS	2年・1年会員	15,600	17,160	16,848	18,530
		聴講生	16,900 ~	18,590 ~	18,252	20,080 ~
			18,200	20,020	19,656	21,620
	10回WS	2年・1年会員	13,000	14,300	14,040	15,440
		聴講生	14,300 ~	15,730 ~	15,210	16,730 ~
			15,600	17,160	16,380	18,020
	7回WS	2年・1年会員	9,100	10,010	9,828	10,810
		聴講生	9,750 ~	10,725 ~	10,647	11,710 ~
			10,400	11,440	11,466	12,610
	6回WS	2年・1年会員	7,800	8,580	8,424	9,270
		聴講生	8,450 ~	9,295 ~	9,126	10,040 ~
			9,100	10,010	9,828	10,810

短期集中講座

受講料	対象	現 行 (円)		改定後 (円)	
		消費税抜	消費税込	消費税抜	消費税込
		2年会員	2,600	2,860	3,042
1年会員	2,925	3,218	3,422	3,770	
	聴講生	3,900	4,290	4,563	5,020

改定後受講料の消費税込表示(総額表示)は、四捨五入して10円単位としています

❖❖❖ ご寄附のお願い ❖❖❖

アカデミーの運営経費は受講料と寄附金で賄っています。今後も厳しい財務状況が見込まれる中、皆さまには引き続きご支援を賜りたく、何卒よろしくごお願い申し上げます。

寄附金 1 □ 1,000 円 (□数の上限はございません)

※ ご寄附をいただいた場合、税額控除が受けられます。

※ 問い合わせ先 かわさき市民アカデミー事務局 電話 044-733-5590



竹内整一先生の思い出



「竹内整一先生を偲んで」 理事長 太田猛彦

竹内整一先生の突然の訃報に接し「本当ですか」と何度も聞き返してしまいました。先生は「人間学」の講師・コーディネーターとして多くの受講生に人間及び人間社会の奥深さを解説して「人間学」講座をアカデミーの看板講座にして下さいました。しかし私にとってはそれだけではありません。先生とは私がアカデミーに関わり始めた最初からカリキュラム作りで一緒に、さらに学長を務めた全期間にわたって副学長として多くの課題に貴重なご意見やご提案を頂き私たちを支えて下さいました。私にとってはこのアカデミーの歴史の半分以上を頼りになる仲間として過ごしましたので、どのように感謝の気持ちを表して良いか分かりません。当然これからも力強くアカデミーを支えて下さると期待していました。その点、残念で仕方ありません。

「本当にお世話になりました」と深く頭を下げるばかりです。竹内先生、ありがとうございました。



「竹内整一さんのこと」 学長 馬場康雄

私が竹内さんを親しく知るようになったのは、ここ3、4年のことです。その前からアカデミーの会議で同席はしていましたが、端正な佇まいで座っていて、気安く声をかけるのはためらわれました。それがあつた時、会議の終わりに、「これから飲みに行かない？」と、多年の友人のように声をかけてくれたのです。同じ時期に同じキャンパスで学生時代を過ごし、その後は同じ大学に勤めた(学部は別ですが)私に親近感を持ってくれたようです。

忘れもしない9月25日の夕刻、学長・副学長とNPO役員有志で懇親会を持ったのですが、これも多事多難なアカデミーの将来のために腹藏のない意見交換を、という竹内さんの発案によるものでした。「じゃあまた」と別れた数日後に世を去るとは。私はいまだ衝撃のただ中にいます。

「竹内先生を偲んで」 折居晃一

突然の訃報に驚愕しました。竹内先生との繋がりは2010年の後期に人間学のコーディネーターを依頼する手紙を差し上げたのが最初でした。以来10余年の付き合いになります。講座では前後期とも2回、ワークショップでは徒然草、平家物語、閑吟集、般若心経等を熟読するとともに講座後には酒を酌み交わしながら歓談するのが習いでした。先生は誰をも受け入れ、開かれた態度で接して下さいました。あらためて先生の著書を読み返すといろいろな思い出が鮮明に浮かび上がり、堪えがたい想いに襲われます。

「竹内先生を偲ぶ」 富本直一

竹内先生の笑顔は講師、受講生の隔てなく人を引き付けるマグネットのようで、一緒に酒の席は楽しかった。あらためて先生の著書のいくつか再読してみた。先達の著作が数多く引用されているが、印象に残っているのは、柳田邦夫の「一人の人間の精神的ないのちというものは、死では終わらない。旅立つことによって純化されたその人の永続的ないのちは、家族や友人たちの心の中で生き続けるのだ。(中略)その永遠のいのちの止むことなき語りかけによって、逆にあたたかい生のエネルギーをもらおうという不思議を生じる」である。先生は此の言に共感される部分があつたのではないかと思われるが、小生も今まさにそんな感じである。

2018年度 開講式 第2部 記念講演 「日本人はなぜ『さようなら』と別れるのか」 鎌倉女子大学教授 竹内整一 先生

講演は、阿久悠の残した「人間はたぶん、さよなら史がどれくらい厚いかによって、いい人生かどうかが決まる」を皮切りに、先生ご自身の、お父様に「さようなら」を告げられなかったエピソードや、ごく最近亡くなれたご友人にははっきりと告げられたエピソードなどを交え、「さようなら＝さようであるならば」が、これまでを確認・総括をすると共に未来に向けて「おのず」から発動される働きを持つ、世界でも稀な別れ言葉であることをお話しされました。

これまでの確認・総括がこれからの繋がるというこの言葉は、今のスタートの季節に相応しいテーマで、改めてやまと言葉のすばらしさを認識しました。

人間学講座・WS 世話人 木下すいれん (2018年4月号から再掲・一部編集)

10月6日、前事務局長の長田俊一さんが亡くられました。ご冥福をお祈りします。



普通の市民が自主的に集い、学び活躍するアカデミーは素晴らしい！皆さんに習ってこれからは私も受講します。(2019年5月号 退任のご挨拶からの抜粋)

2024年度前期受講生募集が 始まります！

1月10日(水)「講座のご案内」
パンフレット配布開始
1月10日(水)～2月20日(火) 申込期間
HPからの申込みは1月15日(月)13時から
「建築と都市」「映像・メディア」「科学WS」
は休講です。

「みんなの力でつなげよう 次の世代へ

～市民による 市民のための 市民大学」(2)



かわさき市民アカデミーは開学より30年が経ちました。開学当初のを知る人は少なくなっていますが、当初の精神を受け継ぎながらも変化しつつ30年間続いてきました。

かわさき市民アカデミーの一番の特徴は一つの講座が12回で構成されていること、ゼミ形式のワークショップがあることでしょう。他のカルチャースクールにはあまり見られない形式かと思えます。なぜ12回なのでしょう。当初、川崎市民大学構想に基づき「市民の学びの場」を作ることを目指しました。修了には修学年限2年間、1講座15回、必修単位は60単位、川崎学は必修、1週間のうち2日以上通学し、午前は講義、午後は演習(ゼミ)に参加し、課題研究(卒論のようなもの)を提出し、学習成果の社会還元のため社会貢献活動を行うという大変厳しいものでした。

時代と共に受講の形式は変化してきましたが、現在でも当時の名残りが垣間見られます。体系的な学習をするには12回くらいの回数が必要であるという先生方のご判断は今も変わらず、大変ご苦労しながらカリキュラムを作ってくださいしています。ワークショップでは受講生の積極的な学習が続いています。

一方で、1講座12回の日程はちょっと大変という受講生の声も聞かれます。またワークショップの参加者も漸減しています。人気のある野外講座も傷害保険、安全対策、下見、イヤホンガイド購入等の経費が多くかかっています。

しかしながらワークショップこそがアカデミーの心髄であり、野外講座はアカデミーの特色の一つです。将来に向けて考えなければなりません。

川崎市で30年続く素晴らしい市民大学を**次の世代**につなぐため、「市民による 市民のための 市民大学」の継続、発展のために運営への積極的な参加、ご協力をお願いします。

- 講座の企画、運営に参加できる方
- パソコンのハード、ソフトの知識をお持ちの方
- 写真を撮るのが好きな方
- 法務、財務などの専門知識をお持ちの方
- 絵やイラスト、デザイン関係のことが好きな方
- おしゃべりしながら、手を動かす仕事の好きな方

みんなで楽しく活動したい方、お待ちしております！

認定 NPO 法人かわさき市民アカデミー

発行人 広報・地域連携部会

編集人 かわら版編集委員会

川崎市中原区今井南町 28-41 川崎市生涯学習プラザ 3F

電話 044-733-5590 FAX 044-722-5761

HPはこちら

問合せメールアドレス info@npoacademy.jp/ ホームページ <http://npoacademy.jp/>

